

「第1回空港運営のあり方に関する検討会」議事概要

日時 平成22年12月3日(金) 16:00~18:00

場所 国土交通省3号館11階特別会議室

○三井副大臣のご挨拶

我が国の空港運営の見直しが必要。民間の知恵を活用し抜本的な見直しについて、皆様に活発な議論を頂きたい。

○御立座長のご挨拶

空港の効率的な運営により、日本の経済成長につなげる。具体的にどうしていくのか、先進事例に学びながら民間の知恵を活用することがポイント。

○討議(各委員の主なご発言)

[目的・意義]

- ・経営効率化を図る上で、見直しの目的をしっかりと明確化する必要がある。
- ・民間の知恵を生かし、より利便性を高めるといふこと。自由度の高い、環境作りが必要。通常では、思いつかないような手法ができて民営化の意義がある。
- ・利便性と効率性は本来、相反しないものだが、空港の場合、独占事業であり、どのようなルールとするのか。

[上下一体化]

- ・経営一体化等により航空会社の負担が軽減できれば、外国LCCの誘致などにつながり、観光や物流が活性化するとともに、我が国の成長に繋がるのが期待できる。
- ・上下一体のメリットが見えないといけない。既存の事業者の抱える問題点やノウハウの蓄積の現状の議論からスタートし、ステークホルダーや自治体との対話を通して議論をしていく必要がある。

[民営化手法]

- ・「民営化」を進めるうえで、ある程度の裁量を民間に任せることも必要。空港の所有を変えるだけでは意味が無く、民間の知恵を最大限発揮できるような運営形態にしていく必要がある。
- ・PFI事業などにおいては、「民間は儲けてはいけない。」という発想があるが、ある程度の儲けを民間に許容しないと参加を表明する企業が多く現れない。
- ・地方の実態を踏まえた議論は重要。民営化後のガバナンス、枠組み、ノウハウと人材が替わらなければならない。
- ・羽田は別格(日本の玄関口)、グループに分けて議論する必要がある。また、空港だけで終わるのではなく、鉄道や道路等の、他の輸送モードも踏まえて考えていく必要があるのではないか。

[外国事例]

- ・諸外国での空港経営の失敗事例からも学ぶべき点は多くあると思う。諸外国の成功事例のみではなく、失敗事例を踏まえた議論をしていく必要があるのではないか。

[地方空港]

- ・今回の議論の対象は国管理空港だが、空港経営の効率化を図っていかなければいけない状況は地方管理空港も同じ。地域別にグループで将来的に考えなければいけない。民営化後のチェックが必要。民間会社としての視点、メリットを生かしているか長期的に踏まえて議論。